

第 15 回小型魚類研究会要旨集

目次・概要	i
会場案内図	ii - iii
プログラム	iv - vii
ポスター発表プログラム	viii - xiv
口頭発表要旨	1 - 26
ポスター発表要旨	27 - 86
参加登録者名簿	87 - 90

第 15 回小型魚類研究会概要

日程：9月12日（土）～13日（日）

会場：名古屋大学野依記念学術交流館

第 15 回小型魚類研究会事務局

世話人

小田 洋一（名古屋大学大学院理学研究科）

平田 普三（名古屋大学大学院理学研究科）

464-8602 名古屋市千種区不老町

名古屋大学 大学院理学研究科 生命理学専攻 脳機能構築学講座

電話：052-789-2980

Email: smallfish2009@bio.nagoya-u.ac.jp

協賛（順不同、敬称略）

株式会社 イナ・オプティカ（広告）

株式会社 イワキ（展示）

オリンパス株式会社（広告）

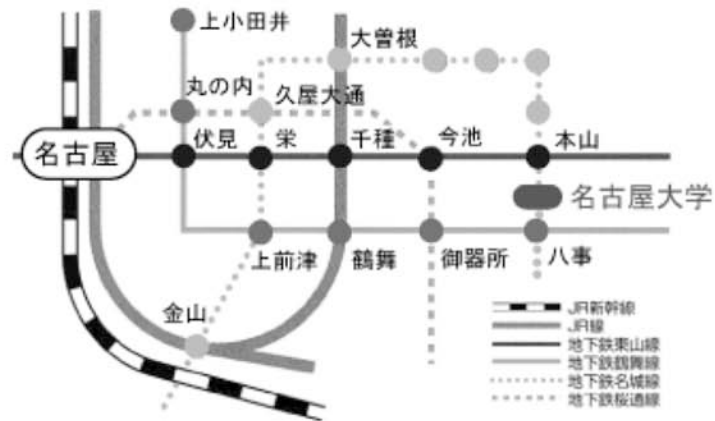
フナコシ株式会社（展示）

株式会社 名東水園（展示）

メダカ通販店 めだか本舗（展示、広告）

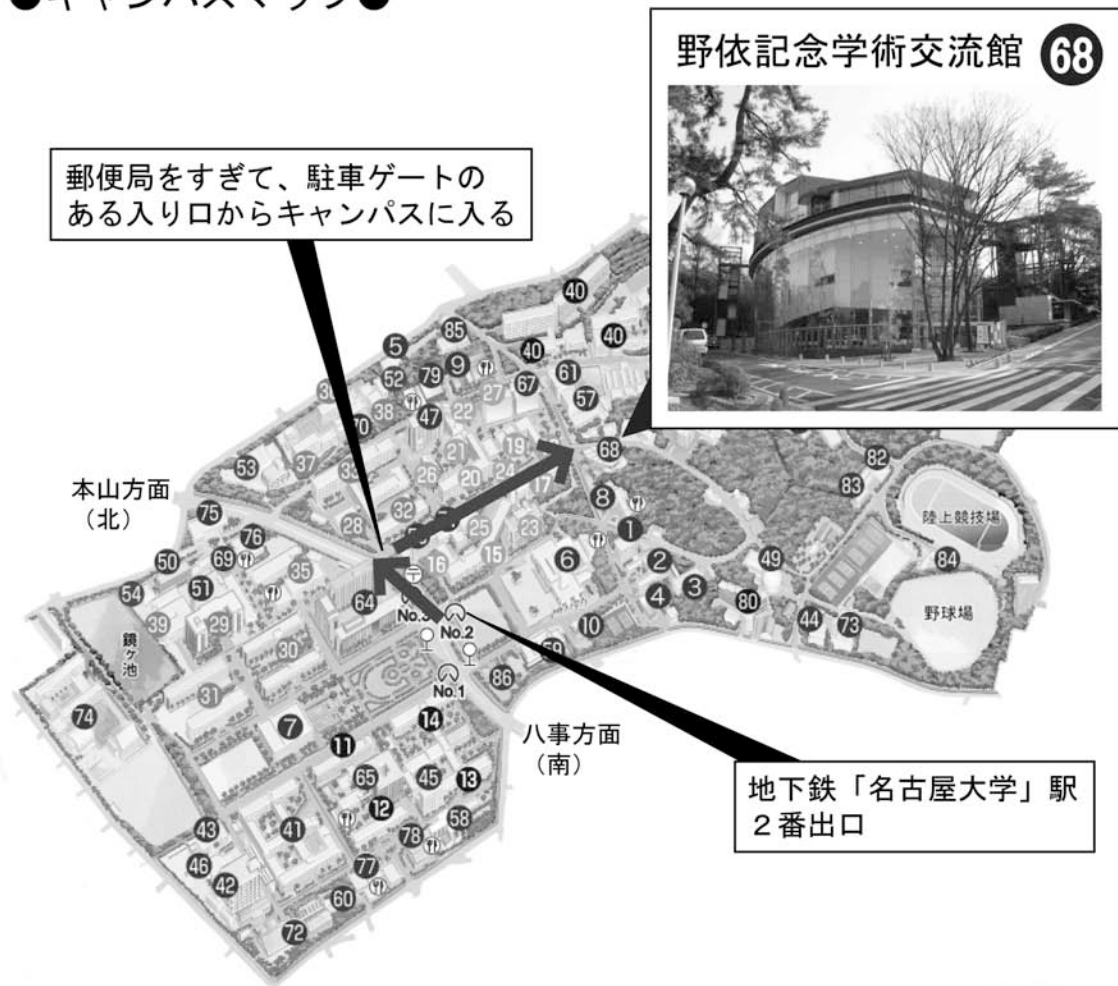
ライカ マイクロシステムズ 株式会社（広告）

●アクセス●

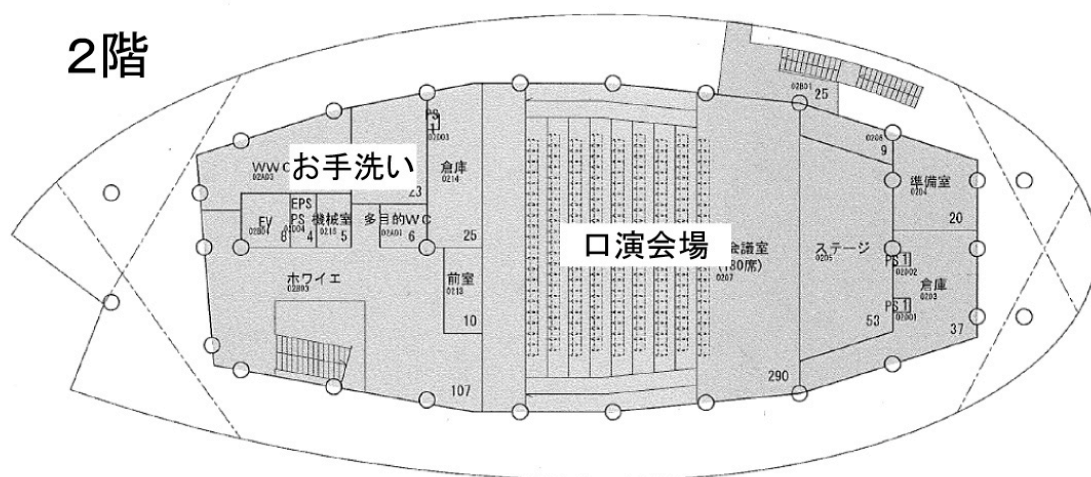
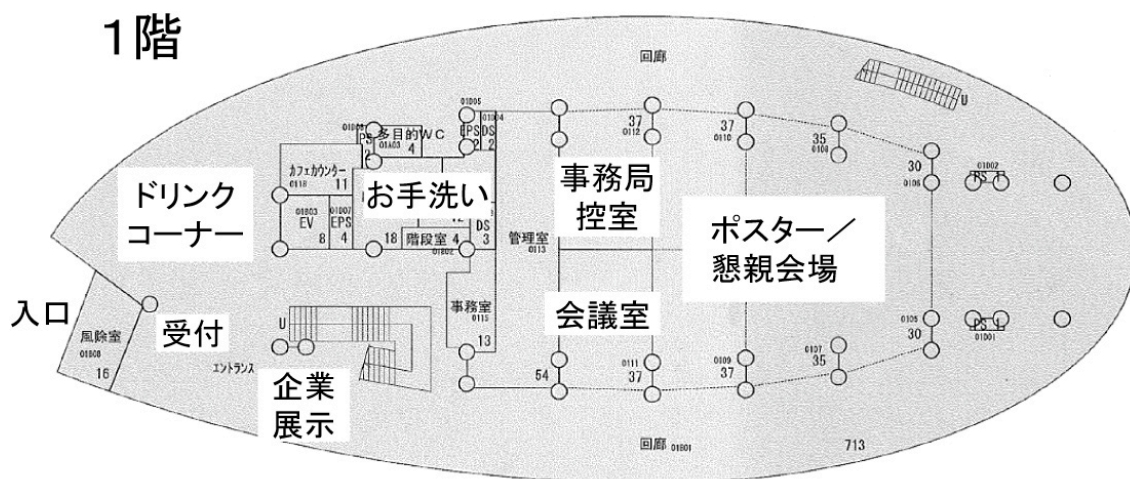


[名古屋駅から]
 地下鉄：東山線「本山」駅下車、名城線に乗り換え
 名城線「名古屋大学」駅下車（2番出口）

●キャンパスマップ●



●会場見取り図●



1階ドリンクコーナーにてコーヒー等をご用意いたします。
 2階は飲食禁止になっておりますので、ご理解ご協力お願いいたします。

プログラム

口頭発表は15分（発表11分+質疑応答4分）でお願いします。
各セッションの前にコンピュータを接続して動作確認をお願いします。
その際には会場係の者が対応いたしますので、声をおかけください。

9月12日（土）

13:00-13:05 開会の辞

13:05-14:20 口頭発表1～5

座長：田辺光志（理化学研究所 発生再生総合科学研究センター）
溝口貴正（名古屋大学 高等研究院）

1 プレニル化経路による Wnt/細胞平板極性（PCP）シグナルの調節

甲斐理武^{1,2}、Nina Buchan¹、Carl-Philipp Heisenberg³、多田正純¹

（¹Department of Cell and Developmental Biology, University College London, London, UK²、基礎生物学研究所 形態形成研究部門、³Max Planck Institute of Molecular Cell Biology and Genetics, Dresden, Germany）

2 Nemo-like kinase は Lef1 のリン酸化を介して Wnt シグナルを正に制御し、中脳視蓋の形成に貢献する

太田聡^{1,5}、石谷閑^{1,5}、清水誠之^{1,5}、松本邦弘²、伊藤素行^{3,4}、石谷太^{1,3}

（¹九州大学 生体防御医学研究所 細胞統御システム分野、²名古屋大学 大学院理学研究科 生命理学専攻 生体応答論、³名古屋大学 大学院理学研究科 生命理学専攻 神経形成シグナル学、⁴名古屋大学 高等研究院、⁵equally contributed）

3 ゼブラフィッシュ感覚神経軸索伸展に必要な新規遺伝子 Sidetrk1

青木誠、瀬川浩、内藤真由美、岡本仁

（理化学研究所 脳科学総合研究センター 発生遺伝子制御研究チーム）

4 Fgfシグナルの自己増幅システムを利用した細胞のクラスタリング機構

松井貴輝¹、Siripong Thitamadee¹、村田朋子¹、柿沼久哉²、鍋谷卓司³、平林義雄³、平手良和⁴、岡本仁²、別所 康全¹

（¹奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 遺伝子発現制御、²理化学研究所 脳科学総合研究センター 発生遺伝子制御チーム、³理化学研究所 脳科学総合研究センター 平林研究ユニット、⁴理化学研究所 発生再生総合科学研究センター 胚誘導研究チーム）

5 Micro RNA による組織特異的遺伝子発現パターンの制御

三嶋雄一郎^{1,2}、Cei Abreu-Goodger³、Alison A. Staton²、Carlos Stahlhut²
Anton J. Enright³、Antonio Giraldez²

（¹神戸大学 大学院理学研究科、²イェール大学 医学部、³EMBL）

14:20-14:35 コーヒーブレイク

14:35-15:50 口頭発表 6～10

座長：武藤彩（国立遺伝学研究所）

小出哲也（理化学研究所 脳科学総合研究センター）

6 ユビキチンプロテアソームシステムは水晶体の発生に必須である

今井文康、吉澤あすか、政井一郎

（沖縄科学技術研究基盤整備機構 神経発生ユニット）

7 ゼブラフィッシュのストライプ形成におけるコネクシン遺伝子の機能に関する考察

渡邊正勝、近藤滋

（大阪大学 大学院生命機能研究科）

8 Synta bulin, a linker of the motor protein, controls dorsal determination in zebrafish embryos

野嶋秀明¹、日比正彦^{1,2}

（¹理化学研究所 発生再生科学総合研究センター 体軸形成研究チーム、²名古屋大学生物機能開発利用研究センター 純系動物器官機能利用分野）

9 ゼブラフィッシュを使った手綱核による情動制御機構の研究

岡本仁、相澤秀紀、揚妻正和、青木田鶴、天羽龍之介、青木亮、木下雅恵

（理化学研究所 脳科学総合研究センター）

10 ヤツメウナギ遊泳における視蓋からの 左右非対称性 運動指令

齋藤和也¹、ステン・グリルナー²

（¹熊本大学 大学院医学薬学研究部 知覚生理部門、²カロリンスカ研究所 神経科学部門 神経生理）

15:50-16:05 コーヒーブレイク

16:05-17:00 コミュニティーミーティング

17:00-17:45 ポスター発表（奇数）

17:45-18:30 ポスター発表（偶数）

18:30-20:30 懇親会（優秀ポスター賞の発表等）

9月13日（日）

9:00-10:30 口頭発表 11～16

座長：前田美香（東北大学 加齢医学研究所）

木村有希子（岡崎統合バイオサイエンスセンター）

11 ハロロドプシン NpHR を用いたゼブラフィッシュにおける運動開始メカニズムの解析

磯田恵里佳、伊藤真理子、山本珠実、黒巢佳祐、八田公平

（兵庫県立大学 大学院生命理学研究科）

1 2 ゼブラフィッシュ運動系における機能的神経回路の可視化

武藤彩¹、中井淳一²、川上浩一¹

(¹国立遺伝学研究所 初期発生研究部門、²埼玉大学 脳科学融合研究センター)

1 3 発達初期ゼブラフィッシュの逃避運動におけるマウスナー細胞の寄与

小橋常彦、谷本昌志、中田奈津代、小田洋一

(名古屋大学 大学院理学研究科)

1 4 GAL4-UAS 制御下に改変型チャンネルロドプシンを発現するトランスジェニックゼブラフィッシュの作製とその評価

梅田桂子¹、東海林亙²、石塚徹¹、八尾寛¹

(¹東北大学 生命科学研究科、²東北大学 加齢医学研究所)

1 5 触覚刺激に対する逃避行動の発達における後脳の役割

浅川和秀^{1,2}、阿部玄武¹、高久保瞳¹、伊藤安希¹、浦崎明宏¹、菊田寛¹、Maximiliano Suster¹、武藤彩¹、Pradeep Lal²、川上浩一^{1,2}

(¹国立遺伝学研究所、²総合研究大学院大学)

1 6 アミノ酸への誘引行動を介在するゼブラフィッシュ嗅覚神経回路の遺伝学的解析

小出哲也¹、宮坂信彦¹、川上浩一²、吉原良浩¹

(¹理化学研究所 脳科学総合研究センター シナプス分子機構研究チーム、²国立遺伝学研究所 初期発生研究部門)

10:30-10:45 コーヒーブレイク

10:45-12:00 口頭発表 17~21

座長：日下部りえ (神戸大学 大学院理学研究科)

三嶋雄一郎 (神戸大学 大学院理学研究科)

1 7 筋肉ではたらく microRNA の機能と進化

日下部りえ^{1,2}、谷沙織¹、工樂樹洋³、成瀬清⁴、宮本由紀⁵、岡村浩司⁶、中井謙太⁶、日下部岳広⁵、井上邦夫¹

(¹神戸大学 大学院理学研究科 生物学専攻、²理化学研究所 発生再生科学総合研究センター、³ Department of Biology, University of Konstanz, Germany、⁴基礎生物学研究所、⁵甲南大学 理工学部生物学科、⁶東京大学 医科学研究所)

1 8 魚類の多様化戦略—変化する腹鰭の位置の設定機構

村田有美枝¹、田村美香¹、會田祐輔¹、藤村衡至^{1,2}、村上安則³、岡部正隆⁴、岡田典弘¹、田中幹子¹

(¹東工大、²メリーランド大、³愛媛大、⁴慈恵医大)

1 9 皮膚による側線パターン形成の制御

和田浩則

(新潟大学 超域研究機構)

2 0 ゼブラフィッシュ精原幹細胞の培養と精子への分化

酒井則良^{1,2}、河崎敏広¹、齋藤憲二¹、新屋みのり^{1,2}

(¹国立遺伝学研究所 系統生物研究センター、²総合研究大学院大学 生命科学研究科)

2 1 赤外レーザーによる生体内局所的遺伝子発現系 (IR-LEGO) の開発とその応用

亀井保博¹、鈴木基史²、出口友則³、伊藤真理子⁴、浦和博子⁵、尾田正二⁶、中山創平⁴、八田公平⁴、岡田清孝⁵、高木新²、船津高志⁷、弓場俊輔³

(¹大阪大学 大学院医学系研究科、²名古屋大学 大学院理学研究科、³産業技術総合研究所 セルエンジニアリング研究部門、⁴兵庫県立大学 大学院理学研究科、⁵基礎生物学研究所 発生生物学領域、⁶東京大学 大学院新領域創成科学研究科、⁷東京大学 大学院薬学研究科)

12:00-13:00 昼食

13:00-14:15 口頭発表 2 2 ~ 2 6

座長：可児修一 (理化学研究所 発生再生総合科学研究センター)
穂積俊矢 (広島大学 大学院理学研究科)

2 2 胚発生における最初の血液循環は、血管内腔への赤血球の移動とプロテアーゼによる細胞接着の解除により開始する

飯田敦夫、坂口和弥、佐藤洋旭、岩木彩、瀬原淳子
(京都大学 再生医科学研究所)

2 3 ヒト先天性糖鎖形成不全症 CDG-Ia の病態モデルフィッシュ

李麗¹、辻田忠志^{1,2}、向笠勝貴¹、矢木宏和³、加藤晃一^{3,4}、山本雅之^{2,5}、小林麻己人^{1,2}

(¹筑波大学 人間総合、²ERATO JST、³名古屋市立大学 薬、⁴岡崎統合バイオ、⁵東北大学 医)

2 4 メダカ初期発生過程における Beta-1,4-galactosyltransferase (β4GalT2) の機能解析

殿山泰弘¹、安西大輔²、池田篤史²、川寄敏祐³、岡昌吾¹

(¹京都大学 大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 基礎検査展開学分野、²京都大学 大学院薬学研究科 生体分子認識学分野、³立命館大学 糖鎖工学研究センター)

2 5 重力変化による金魚の眼球運動の解析

岩田香織^{1,2}、高林彰²

(¹諏訪マタニティークリニック附属清水宇宙生理学研究所、²藤田保健衛生大学 医療科学部)

2 6 国際宇宙ステーション (ISS) “きぼう” においてメダカをモデル動物として利用する宇宙実験 / 研究の体制構築

尾田正二^{1,2}、浅香智美¹、新堀真希¹、寺田昌弘¹、太田敏子¹、向井千秋¹、三谷啓志²、清水順一郎³、益川充代³

(¹宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 有人宇宙環境利用ミッション本部、²有人宇宙技術部、³東京大学 大学院新領域創成科学研究科 先端生命科学専攻、³宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 有人宇宙環境利用プログラムグループ)

14:15-14:20 閉会の辞

ポスター発表プログラム（60演題）

27～54：優秀ポスター賞（学生）選考対象（28演題）

55～69：優秀ポスター賞（博士研究員）選考対象（15演題）

になります。

発表内容だけでなく、プレゼンテーションの仕方など総合的にご判断いただき、お配りの投票用紙でご投票ください。

27 *jagged2* regulates proper epithelial organization in pharyngeal arches and somites in association with fibronectin

高橋浩之¹、赤沼啓志^{1,2}、高田慎治¹

(¹基礎生物学研究所、岡崎統合バイオサイエンスセンター、²奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科)

28 Jagged-Notch シグナルは Notochord 細胞の運命決定を通じて、周囲組織のパターン形成活性と体軸支持構造形成を調節する

盛田良子^{1,2}、山本麻衣^{1,2}、溝口貴正¹、磯田美帆^{1,2}、松本邦弘²、米村重信³、川上浩一⁴、伊藤素行^{1,2}

(¹名古屋大学 高等研究院、²名古屋大学 大学院理学研究科 生命理学専攻、³理化学研究所 発生再生科学総合研究所、⁴国立遺伝学研究所)

29 体節形成過程における FGF シグナルの役割

秋山隆太郎、松井貴輝、別所康全

(奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 遺伝子発現制御)

30 魚類における性決定遺伝子の機能解析

矢島好文¹、鶴若祐介²

(¹北陸先端科学技術大学院大学 マテリアルサイエンス研究科 機能科学専攻、²海洋研究開発機構 海洋・極限環境生物圏領域)

31 *DMRT1* 遺伝子突然変異メダカはオスからメスへ性転換する

増山治男^{1,2}、松田勝²

(¹東京農工大学大学院 連合農学研究科 応用生命科学専攻、²宇都宮大学 バイオサイエンス教育研究センター)

32 メダカ初期胚における miR-430 の発現と機能

谷沙織¹、日下部りえ¹、成瀬清²、坂本博¹、井上邦夫¹

(¹神戸大学 大学院理学研究科、²基礎生物学研究所)

33 CHARACTERIZATION OF MEDAKA *C-MYB* MUTANT *BENI FUJI*, WHICH DISPLAYS DEFECTIVE HEMATOPOIETIC PROGENITOR DIFFERENTIATION; AN INSIGHT INTO HEMATOPOIETIC ONTOGENESIS IN MEDAKA

Akemi Moriyama¹、Kouichi Maruyama²、Akira Kudo¹

(¹Department of Biological Information, Tokyo Institute of Technology、²Research Center for Radiation Protection, National Institute of Radiological Sciences)

3 4 *kyoho*; 血球が巨大化するメダカ変異体

泰松清人、森山明美、猪早敬二、工藤明

(東京工業大学大学院 生命理工学研究科 生命情報専攻)

3 5 To12 システムを利用した一過性レスキュー解析

竹内未紀¹、金子寛¹、西川恵三¹、川上浩一²、山本雅之^{3,4}、小林麻己人^{1,4}

(¹筑波大学 人間総合、²国立遺伝研、³東北大学 医、⁴ERATO-JST)

3 6 ダイヤモンドブラックファン貧血のゼブラフィッシュモデルを用いた解析

鳥原英嗣、上地珠代、中島由香里、剣持直哉

(宮崎大学 フロンティア科学実験総合センター)

3 7 膜型プロテアーゼ ADAMにより制御される血液循環の開始は、プロテアーゼ阻害剤の血管内投与により抑制できる

岩木彩、飯田敦夫、瀬原淳子

(京都大学 再生医科学研究所)

3 8 リゾホスファチジン酸産生酵素オートタキシンの血管形成過程における役割

中永景太¹、濱弘太郎¹、田中将之¹、浅岡洋一²、仁科博史²、青木淳賢^{1,3}

(¹東北大学 大学院薬学研究科 分子細胞生化学分野、²東京医科歯科大学 難治疾患研究所 発生再生生物学分野、³PRESTO JST)

3 9 ゼブラフィッシュを用いたヒト先天性糖鎖形成不全症 CDG-Ia の治療戦略の探索

向笠勝貴¹、辻田忠志^{1,2}、李麗¹、山本雅之^{2,3}、小林麻己人^{1,2}

(¹筑波大 人間総合、²ERATO JST、³東北大 医)

4 0 メダカ *mii* 変異体の解析: ヒト PCD のモデル生物へ向けて

長尾勇佑¹、前田礼¹、程晶磊²、加村啓一郎³、二瓶大地³、越田澄人³、武田洋幸³、藤本豊士²、若松佑子¹、日比正彦¹、橋本寿史¹

(¹名古屋大学 生物機能開発利用研究センター、²名古屋大学 大学院医学研究科 分子細胞学、³東京大学 大学院理学研究科 生物学)

4 1 ストレス応答型転写因子 Nrf2 の標的遺伝子群の多様性

中島瞳¹、中島-高木やえ子¹、井手玲子¹、辻田忠志^{1,2}、金子寛¹、秋山真一³、若狭武司³、田丸浩³、山本雅之^{2,4}、小林麻己人^{1,2}

(¹筑波大 人間総合、²ERATO JST、³三重大 生物資源、⁴東北大 医)

4 2 発達期ゼブラフィッシュにおける早期浮腫評価系を用いたダイオキシンによる浮腫発生機構の検討

河村幸浩¹、笹野憲吾¹、久保田彰^{1,2}、平賀武夫¹、寺岡宏樹¹

(¹酪農学園大学・獣医・毒性、²Woods Hole Oceanographic Institution)

4 3 新規 differential display 法の開発：8 種の脊椎動物における共通反復倒置配列を用いた degenerate oligonucleotide -primed PCR モノプライマー設計

池田晴喜¹、伊藤知子¹、鵜飼典佳¹、白石順也¹、遠藤大二²、平賀武夫¹、寺岡宏樹¹

(¹酪農学園大 獣医 毒性、²酪農学園大 獣医 放射線)

4 4 新規ペプチド遺伝子 *zAGD3* の構造および機能解析

井上允子¹、相澤康則^{1,2}

(¹東京工業大学 生命理工学研究科 分子生命科学専攻、²東京工業大学 バイオ研究基盤支援総合センター)

4 5 ゼブラフィッシュ成魚脳視蓋における神経幹細胞・前駆細胞の同定

伊藤容子¹、田中英臣^{1,2}、岡本仁^{1,2}、大島登志男¹

(¹早稲田大学 理工学術院 先進理工学部 生命医科学科、²理化学研究所 脳科学総合研究センター 発生遺伝子制御研究チーム)

4 6 ゼブラフィッシュ成魚脳における新生ニューロンの移動

清水耕平、岸本憲人、澤本和延

(名古屋市立大学 大学院医学研究科 再生医学分野)

4 7 ゼブラフィッシュを用いた活動依存的シナプス形成の解析

山中衣織、小田洋一、平田普三

(名古屋大学 大学院理学研究科 生命理学専攻)

4 8 ゼブラフィッシュ・マウスナー細胞の特異的な興奮性の獲得とその分子基盤

渡邊貴樹、鈴木貴子、谷本昌志、平田普三、小田洋一

(名古屋大学 大学院理学研究科 生命理学専攻)

4 9 ゼブラフィッシュの耳石器官 有毛細胞の発達

太田有紀子、谷本昌志、小田洋一

(名古屋大学大学院 理学研究科 生命理学専攻)

5 0 脊髄 V 0 神経の解析

佐藤千恵、木村有希子、東島眞一

(岡崎統合バイオサイエンスセンター)

5 1 メダカ近交系間における、明暗刺激に対する逃避様反応の定量的比較

坪子理美¹、末廣勇司¹、奥山輝大¹、島田敦子¹、武田洋幸¹、成瀬清²、久保健雄¹、竹内秀明¹

(¹東京大学 大学院理学研究科 生物科学専攻、²基礎生物学研究所 バイオリソース研究室)

5 2 行動解析によるゼブラフィッシュの視覚感度に関する研究

守優輔¹、永島幹子²、村本健一郎¹、加藤聖³

(¹金沢大学 大学院自然科学研究科 電子情報工学、²金沢大学 大学院医学系研究科 保健学、³金沢大学 大学院医学系研究科 脳情報分子学)

5 3 ゼブラフィッシュ *flightless* 変異体から分かる、遅筋と速筋の使い分け

長縄由里子、平田普三

(名古屋大学 大学院理学研究科 生命理学専攻)

5 4 IR レーザによるゼブラフィッシュ胚での単一細胞および細胞集団レベルでの遺伝子誘導

伊藤真理子¹、亀井保博²、出口友則³、鈴木基史⁴、高木新⁴、弓場俊輔³、中島洋平¹、八田公平¹

(¹兵庫県立大学 大学院生命理学研究科、²大阪大学 大学院医学系研究科、³産業技術総合研究所 セルエンジニアリング研究部門、⁴名古屋大学 大学院理学研究科)

5 5 ゼブラフィッシュにおけるシグナル伝達可視化の試み

太田聡、清水誠之、石谷太

(九州大学 生体防御医学研究所 細胞統御システム分野)

5 6 ニューロフィラメントプロモーターを用いた神経細胞可視化トランスジェニックメダカの開発

出口友則、藤森一浩、川崎隆史、弓場俊輔

(独立行政法人 産業技術総合研究所 セルエンジニアリング研究部門)

5 7 視神経損傷後のゼブラフィッシュ網膜におけるストレス応答性因子の発現解析

永島幹子¹、藤川千恵子¹、馬渡一浩¹、加藤聖²

(¹金沢大学 大学院医学系研究科 保健学、²金沢大学 大学院医学系研究科 脳情報分子)

5 8 Atypical PKC regulates polarized dendrite formation of cerebellar Purkinje cells by localizing Golgi apparatus

田辺光志¹、Young-Ki. Bae^{1,2}、可児修一¹、清水貴史¹、日比正彦¹

(¹理研 CDB 体軸形成研究チーム、²National Cancer Center, Korea)

5 9 ゼブラフィッシュ脊髄 V2 ニューロンの解析

木村有希子¹、佐藤千恵^{1,2,3}、東島眞一^{1,2,3}

(¹岡崎統合バイオサイエンスセンター、²生理学研究所、³総合研究大学院大学)

6 0 IRES を用いた *To12* トランスポゾンによる遺伝子トラップ法の開発

阿部玄武、高久保瞳、浅川和秀、菊田寛、武藤彩、Maximiliano L. Suster、浦崎明宏、川上浩一

(国立遺伝学研究所 初期発生研究部門)

6 1 ミオスタチン (骨格筋増殖抑制因子) 変異メダカの生物学的特性

菅田慎一¹、岡本裕之¹、谷口善仁²、吉浦康寿¹

(¹水産総合研究センター 養殖研究所、²京都大学大学院 医学部)

6 2 ゼブラフィッシュ胚における心臓特異的な protein 4.1R(ZF4.1R) の発現とその機能

村田健二¹、布村涉²、Cherr, G.N.³(¹University of California, Davis, Dept. of Animal Sci、²東京女子医科大学 医学部 生化学、³University of California, Davis, Depts of Environmental Toxicology and Nutrition, Bodega Marine Laboratory.)

- 6 3 ゼブラフィッシュ後方沿軸中胚葉形成における Mesogenin の役割**
矢部泰二郎¹、高田慎二^{1,2}
(¹岡崎統合バイオサイエンスセンター、²基礎生物学研究所)
- 6 4 ゼブラフィッシュの内胚葉性器官に異常を示す *morendo* 変異体の解析**
穂積俊矢¹、尾形光津子²、吉澤明生²、石谷太²、堤真紀子²、黒岩厚²、伊藤素行²、菊池裕^{1,2}
(¹広島大 院理 生物科学、²名古屋大 院理 生命理学)
- 6 5 Androgen receptor 遺伝子のメダカ初期発生に果たす役割：血球、血管発生への関与**
荻野由紀子、加藤洋教、松本美穂、山田源
(熊本大学 発生医学研究所 生殖発生分野)
- 6 6 ゼブラフィッシュモデルにおける WISP3 遺伝子の役割の検討**
中村幸男^{1,3}、脇谷滋之⁴、田原秀晃¹、加藤博之³、Matthew L. Warman²
(¹東京大学 医科学研究所 臓器細胞工学分野、²Howard Hughes Medical Institute, Department of Orthopaedic Surgery and Genetics, Children's Hospital and Harvard Medical School、³信州大学 医学部医学科 運動機能学講座、⁴大阪市立大学 大学院医学研究科 整形外科学)
- 6 7 メダカ担ガンモデルの構築**
丸山耕一¹、竹中光²、古川高子²、佐賀恒夫²、長谷川純崇²
(¹放射線医学総合研究所 放射線防護研究センター、²放射線医学総合研究所 分子イメージング研究センター)
- 6 8 富田コレクションのポジショナルクローニング**
木村哲晃、竹花祐介、笹土隆雄、成瀬清
(基礎生物学研究所 バイオリソース研究室)
- 6 9 精子形成期の減数分裂に異常を起こす新規突然変異体の解析**
斉藤憲二¹、Kellee R. Siegfried²、Christiane Nüsslein-Volhard²、酒井則良^{1,3}
(¹国立遺伝学研究所 系統生物研究センター、²Max Planck Institute for Developmental Biology, Department of Genetics、³総合研究大学院大学 生命科学研究科)
- 7 0 野外環境で飼育したメダカ精巣における精子形成活性の周期的変化**
岩崎裕子、大川恵子、貞方久人、柏館敬子、高山-渡邊絵理子、鬼武一夫、渡邊明彦
(山形大学 理学部 生物学科)
- 7 1 NO-cGMP 系が金魚の視神経の再生に関与する**
郡山恵樹¹、本間啓子²、馬渡一浩²、加藤聖¹
(¹金沢大学 大学院医学系研究科 脳情報分子学、²金沢大学 大学院医学系研究科 保健学専攻)
- 7 2 ゼブラフィッシュ胚・運動神経細胞体の脊髄からの脱落現象**
前田(佐藤)美香、東海林互
(東北大学 加齢医学研究所 分子発生)

7 3 逃避運動に重要な役割を果たす脊髄交叉型抑制神経細胞の解析

佐藤千恵¹、木村有希¹、小橋常彦²、堀川一樹³、武田洋幸³、小田洋一²、東島眞一¹
(¹岡崎統合バイオサイエンスセンター、²名古屋大学 大学院理学研究科 生命理学専攻、³東京大学 大学院理学研究科 生物科学)

7 4 ゼブラフィッシュ脊髄での *pax8* 遺伝子の発現パターンと回路形成における役割

池永隆徳^{1,4}、Jason M. Urban¹、Nichole Gebhart²、川上浩一³、小野富三人¹
(¹Laboratory of Molecular Physiology, National Institute on Alcohol Abuse and Alcoholism, National Institutes of Health, Bethesda, MD, USA、²The Whitney Laboratory for Marine Bioscience, University of Florida, St Augustine, FL, USA、³国立遺伝学研究所 初期発生研究部門、⁴兵庫県立大学 大学院生命理学研究科)

7 5 ゼブラフィッシュの小脳発生

可児修一¹、Young-Ki Bae¹、清水貴史¹、田辺光志¹、佐藤千恵²、東島眞一²、日比正彦^{1,3}
(¹理化学研究所 発生再生科学総合研究センター 体軸形成研究チーム、²岡崎統合バイオサイエンスセンター、³名古屋大学 生物機能開発利用研究センター)

7 6 Screen for mutations affecting development of zebrafish cerebellum

清水貴史¹、可児修一¹、Young-Ki Bae^{1,2}、田辺光志¹、日比正彦^{1,3}
(¹理化学研究所 発生再生科学総合研究センター 体軸形成研究チーム、²National Cancer Center, Korea、³名古屋大学 生物機能開発利用研究センター)

7 7 脊椎動物での脳形成制御因子 *Gbx2* に存在する多様な分子内機能ドメイン

中山由紀子、金井麻衣子、菊田寛、弥益恭
(埼玉大学 大学院理工学研究科 生命科学部門)

7 8 セロトニン合成酵素 *Tph1b* の体軸形成における役割

前川真吾¹、細川浩¹、Eric S. Weinberg²、小林茂夫¹
(¹京都大学 大学院情報学研究科 知能情報学専攻、²Department of Biology, University of Pennsylvania)

7 9 YIPF3 と YIPF4 はシス・ゴルジに局在し脊椎動物の初期発生に必須の役割を持つ

中村暢宏¹、谷本浩二¹、長屋雄大¹、鈴木くるみ¹、エイヤ・ヤムサ²、酒井紀子¹、坂口倫章¹、田村大介¹、藤井豪郎¹、青木謙二¹、新屋みのり³、酒井則良³、米田幸雄¹
(¹金沢大学 薬学系 大学院自然科学研究科 生命科学専攻、²ヘルシンキ大学 生物工学研究所 電子顕微鏡ユニット、³国立遺伝学研究所 系統生物研究センター 小型魚類開発研究室)

8 0 メダカ 逆遺伝学的手法による変異個体を用いた突然変異生成の分子遺伝学的解析

石川智子、亀井保博、音在信治、藤堂剛
(大阪大学 大学院医学系研究科 放射線基礎医学教室)

8 1 メダカを用いた悪性黒色腫モデル系の構築

松崎ゆり子、佐谷秀行

(慶應義塾大学 医学部 先端医科学研究所)

8 2 ベータノダウイルスの感染・増殖に適したメダカ培養細胞の同定

冲中泰、足立圭、有安亮、住吉洸介

(広島大学 大学院生物圏科学研究科 水族病理学研究室)

8 3 深海生物資源の有効利用法の確立

鶴若祐介¹、矢島好文²

(¹ 海洋研究開発機構 海洋・極限環境生物圏領域 海洋生物多様性プログラム 極限生命工学研究チーム、² 北陸先端科学技術大学院大学 マテリアルサイエンス研究科 機能科学専攻)

8 4 メダカをモデル動物として利用する宇宙医学研究へ向けた地上研究の開始

浅香智美¹、尾田正二^{1,2}、新堀真希¹、寺田昌弘¹、太田敏子¹、三谷啓志²、寺井崇二⁴、清水順一郎³、益川充代³、向井千秋¹

(¹ 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 有人宇宙環境利用ミッション本部 有人宇宙技術部 宇宙医学生物学研究室、² 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 先端生命科学専攻、³ 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 有人宇宙環境利用プログラムグループ 有人宇宙環境利用センター、⁴ 山口大学 大学院医学系研究科 消化器病態内科学)

8 5 国際宇宙ステーション「きぼう」搭載用 水棲生物実験装置の開発

益川充代¹、内田智子¹、崎村徹¹、村上敬司¹、河野靖²

(¹ 宇宙航空研究開発機構 有人宇宙環境利用ミッション本部 宇宙環境利用センター、² 三菱重工業 神戸造船所 宇宙機器設計課)

8 6 「世界のメダカ館」 MEDAKA WORLD の概要

佐藤正祐、辻信義

(名古屋市東山動物園 世界のメダカ館)